

英 語

1

解答

問1. エ 問2. ア 問3. 3番目:ウ 6番目:キ
問4. イ 問5. ウ 問6. エ 問7. エ 問8. ア
問9. ウ 問10. ウ 問11. オ 問12. ア 問13. オ・キ

..... 全訳

《成長思考は不可能を可能にする》

- ① 成長思考をもった人々はただ挑戦を追い求めるのではなく、それで成長する。その挑戦が大きいものであればあるほど、彼らはより伸びる。そしてスポーツの世界ほどそれがはっきりとわかる場所はない。人々が伸びて成長するのをまさに見ることができる。
- ② 当時女子サッカー界の最も偉大なスターであったミア=ハムは、こうはっきり言っている。「人生においてずっと私は上を目指してプレーしてきました、つまり年齢も体格も上で、より技術や経験もある選手、要するに自分より上手い相手に挑戦してきたのです」始めに彼女は兄とサッカーをした。そして10歳の時、11歳の男子チームに入った。それからアメリカで最強の大学チームに身を投じた。「私は日々彼らのレベルまで高めようとしていました…そして夢に見ていた以上の速さで上達していったのです」
- ③ パトリシア=ミランダはレスリングをしたいと思う、ぽっちゃりした体型の、スポーツに不向きな高校生だった。マットで打ちのめされた後、彼女は「お前は下手で笑っちゃうな」と言われた。彼女は最初は泣いたが、その後でこう感じた、「それは私の決意を固めるものでした…このまま進み続け、努力して集中して信じてトレーニングすることで、どうにかいっばしのレスリング選手になれるかどうか、確かめないといけなかったのです」。彼女はどこでこの決意を身につけたのだろうか。
- ④ ミランダは困難の全くない人生で育った。しかし彼女の母が40歳で動

脈瘤によって亡くなったとき、10歳のミランダはある信念を思いついた。「死の淵に面したとき、言葉にできる素晴らしいことのひとつが『自分は本当にやりきった』なのです。この危機感や母が死んだときに（私の中に）染み込んでいきました。ただ容易なことだけをして人生を過ごしているなら自分を恥じるべきなのです」 よって、レスリングが困難を与えてきたときに、彼女はそれに立ち向かう準備ができていたのである。

- ⑤ 彼女の努力は実を結んだ。24歳でミランダはついに勝利を掴んだ。アメリカのオリンピック代表チームの体重別部門での出場資格を得て、彼女は銅メダルを獲得しアテネから帰国した。そして次に何をしたか。イェール大学のロースクールだ。人々は彼女に、すでにトップにいるところにとどまるように説得したが、ミランダは、またゼロから始めて、次は自分がどのように成長できるかを試すほうがより刺激的だと感じていた。
- ⑥ 時に成長思考を持つ人々は全力を尽くし、不可能を可能にすることがある。1995年、俳優のクリストファー・リーヴは馬から振り落とされた。首の骨は折れ、脊髄は脳から切断され、そして首から下が完全に麻痺してしまった。医学の診断は、「本当に残念です。為す術はありません」というものだった。
- ⑦ しかしリーヴは電気刺激の助けを借りて、麻痺した身体のあらゆる部分を動かすことを含めた、苛酷な運動プログラムを始めた。なぜ自分はまた動くことが「できない」のか。どうして脳は再び肉体が従うような指令をもう一度出すことができないのだろうか。医者たちは彼が現実に対し否定的になっていて、最終的に失望につながるのではないかと警告した。彼らは、これまでにこのような症例を目にしており、それは彼の病状への適応にとって悪い兆候であった。しかし実際のところ、リーヴは自分の時間で他に何をするというのだろうか。他により良いプロジェクトはあったのだろうか。
- ⑧ 5年後、リーヴは再び動きを取り戻し始めた。初めは手に、それから腕、脚、そして胴体に動きが生じた。彼は治癒の状態からは程遠かったが、脳スキャンは彼の脳が再び体に信号を送っていて、体もそれに反応していることを示した。リーヴは自分の能力を伸ばしただけでなく、神経系とその回復の可能性についての科学の考え方全体を変えたのだ。そうすることによって、彼は研究に新たな展望と脊髄損傷者に新たな希望の道を切り開い

たのだ。

解説

問1. 下線部(1)直後の meaning … の部分は前の文章をより詳しく説明しており、これがヒントとなる。そこではミア=ハムが自身より優れた選手たちに挑んできたことが記されているので正解はエ。「自分より上手い選手と競い合うことで自らを高めようとする」となる。

問2. 下線部(2)の直後の文に、「彼女は泣いた」とあるのでネガティブなことを言われたことが想像できる。選択肢の中で否定的な意味を持つ単語はアの worthless 「役立たずな、無益な」のみであり、一方で joke には「滑稽な人・物（ネガティブな意味で）」という意味がある。よってアが最も近い意味を持ち正解となる。

問3. know という動詞の後には節が来ることが多く、この問いでは if 節が続くと考えられる。節内においては多くの場合、「主語と（助）動詞」の配列を考えることが大切になる。この問題は and が多用されていて複雑に見えるが、いずれも名詞を結びつけていることから “A and B and C …” という長い主語を構成している可能性を考える（問題文の日本語訳も参考になる）。それに助動詞を含む training could が続く。さらに助動詞 could に続く動詞は legitimize のみであり、legitimize A as B 「A が B であることを正当化する」という表現から枠外の as a wrestler と結びつくことがわかる。最終的に整序した文は (had to know) if effort and focus and belief and training could somehow legitimize me (as a wrestler.) となる。この問題に限らず、語句整序問題で if が構成要素にあった場合、「～かどうか」という意味で使用することが多い。よって3番目にくるのはウ、6番目にくるのはキである。

問4. principle は「(行動の指針になる) 信念、主義」という意味。この第4段 (Miranda was raised …) では母の死を通じて、人生において安易な道を選ぶことに恥を感じる、ミランダの考えの変化が綴られている。つまり困難に挑み続けるという意味が含まれているイが正解。ウは、レスリングに限った話ではないので適切な解答ではない。

問5. pay off は「(計画・努力が) 実を結ぶ」という意味。頻出熟語なので絶対に覚えておきたい。よって最も近い意味を持つウ、was successful が正解。ちなみに bear fruit も pay off と同じ意味があり、セットで覚え

ておくとよいだろう。

問6. 空欄Aの前後の文章はミランダの努力が報われ、勝利したことが述べられていることから空欄にはポジティブな言葉が入ると考えられる。よって正解はエの laugh である。have the last laugh 「最後に勝利を掴む」は聞き慣れない表現かもしれないが、このような問題は勘で解くのではなく文脈によって推測をすることが大切である。

問7. この前の文章でミランダはレスリングによる成功を成し遂げたとある。よって下線部(6)「(人々は) 彼女に、すでにトップにいるところにとどまるように説得した」における「トップにいるところ」とはレスリングを表している。よって、エ. 「(人々は) 彼女にレスリングを続けるよう説得を試みた」が正解。

問8. come to terms with A は「Aを受け入れる、Aと折り合いをつける(困難な状況において)」という意味である。医療の診断から、現状に対して手の施しようがない状態なことが汲み取れる。よって、get along with A 「Aとうまくやる、Aとうまく付き合う」が最も近い意味を持ち、アが正解となる。

問9. set A up for B は「AをBの状態に置く」という意味。つまりリーヴは現実を受け入れられずに自身を絶望へと向かわせていることが述べられている。選択肢の中ではほぼ同じ意味を持つウ. 「失望に向かう」が正解となる。

問10. 文の意味の流れから考える。but 以降は彼の身体が快方に向かっているというポジティブな内容である。ということは but の前の文は否定的な内容でなければならない。選択肢のうちでウの far from ~ は「全く~でない、~は程遠い」という否定表現であり、これを空所に入れることで He was far from cured 「彼は全く治っていなかった」という意味になり、but 以降の内容とスムーズにつながる。よって正解はウとなる。

問11. 空欄Cの直後において、疑問文でないのに did が主語よりも先に来ていることに注目しよう。ここでは文の語順を変えて聞き手の注意を引く倒置法が使われている。倒置表現は否定語句を文頭に置くことが一般的であり、選択肢の中でそれに該当するのはオの Not only だけである(ちなみに本文では、but also が省略されている)。他にも seldom 「めったに~ない」、little 「まったく~ない」などの否定を表す副詞はよく倒置法で使

われることが多いのでいくつか例文を覚えるとよい。

問12. in doing so は「そうすることで」という意味を持つ。下線部の意味がわからなかったとしても下線部(9)より前に述べられているリーヴの症状の変化から下線部(9)直後の、「研究への展望を切り開く」という内容の流れに注目する。そこから前の文章が要約されていることがわかるので「結果として」の意味を表すアが正解。

問13. ア。「体のストレッチ」には言及していないので不正解。

イ. 第2段最終文(“Each day I…”)に夢にも思わぬ速さとあるので「想定していた程度の早さ」は本文の内容と合わない。

ウ. 第3段第1文(Patricia Miranda was …)に、レスリングがしたかったぽっちゃりの運動に不向きな高校生だった、とあるので「レスリングなどしたくなかった」は本文の内容と合致しない。

エ. 第4段第1文(Miranda was raised …)に困難が全くない人生で育ったとあるので、「パトリシア=ミランダの人生は困難の連続だった」は不適切。

オ. 第4段最終文(“So when wrestling …”)に「レスリングで困難に直面したとき、彼女はそれに挑む準備ができていた」とあることから本文の内容と合致する。

カ. クリストファー=リーヴは自動車事故にあったのではなく、落馬したことが第6段第2文(In 1995, …)からわかる。よって本文の内容と合致しない。

キ. 第7段(Reeve, however, started …)に「しかしリーヴは電気刺激の助けを借りて、麻痺した身体のあらゆる部分を動かすことを含む、苛酷な運動プログラムを開始した」と書いてあるので本文の内容に合致する。

ク. 最終段第1文(Five years later, …)に「5年後、リーヴは再び動きを取り戻した」とあるので「体は動かなかった」は不適切。

2

解答

問1. ウ 問2. エ 問3. エ 問4. エ

問5. 2番目: イ 5番目: ア 問6. ウ 問7. ア

問8. ウ 問9. ウ 問10. ア 問11. ウ 問12. エ

《剽窃をめぐる苦悩・著作権と剽窃・剽窃を防ぐために》

- ① デジタルの時代では、学生が出版物を見つけ、コピーするのが容易になってきている。しかし他人の文章を、出典を表示せずにコピーすることは学生を大きなトラブルに巻き込む可能性がある。他人の文章を、出典を表示せずにコピーすることは剽窃と呼ばれる。(中略) アメリカや他の西洋諸国において、大学は剽窃を避けるための規則を設けている。しかしこれらの規則を正しく守ることを学ぶのは一部の留学生にとって難しい場合がある。
- ② なぜ大学や出版社は、誰かの文章のほんの小さな一部分でさえコピーすることに関してそんなにも気にするのか。アメリカの著作権法は、本、映画、音楽、画像や芸術作品を含む、筆者が明らかなオリジナル作品を保護している。それはまた、コンピュータのソフトウェアや基本設計に対しても保護対象の域を拡げている。所有者はその作品を販売したり、他の人が使用するのを許可できる。その目的は、著作権が社会の進歩に貢献することだ。もし人々が、知的財産と呼ばれる、彼ら自身の作品を所有することによって収益を得ることができるなら、より多くの人々がオリジナルの作品を生み出したくなるだろう。その法律は、批評、コメント、報道、教育、研究を含む活動のためであれば、適正使用と呼ばれるオリジナル作品の無許可の使用を認めている。しかしながら、いくつかの制限がある。教育において、学生は原作者のクレジット表記や、出典の表示をすれば、著作権で保護された作品のごく一部を自分の文章や研究に含めることができる。ハーバードなどの多くの大学は、教授や他の学生との会話から得た情報やアイデアの出所にさえクレジットをつけることを学生たちに促している。ハーバードでは自己剽窃（自身が以前に書いた文章を再びそのまま使用すること）に関してさえも注意喚起している。つまり、教員の許可なしには、同じ内容のものを複数の授業に提出することはできないのである。そうしないことが剽窃とみなされている。剽窃の罰則はさまざまである。(中略) 教授は、二度としないよう学生に注意するだけの場合もあれば、成績を下げたり、もしくは学生をその授業で落第させることもある。さらに極端な場合、学生は一時的に出席停止になったり、退学処分にされる可能性がある。

③ アメリカの一部の留学生は剽窃を避けたり引用のルールを学ぶのに苦勞することがある。その苦勞の一部は文化の違いによるものである。知的財産を守るという長い歴史のかつ法的伝統がない文化もあるのだ。これらの文化においては、知識は所有権のない、誰にとっても共有のものと考えられてきた。他方で、コピーすることは専門家たち自身ではなく、彼（彼女）らの文章や考え方に敬意を示すことだとみなされている文化もある。もし英語が学生の第一言語でなかったら、複雑な概念を表現する言葉を見つけることは時に困難になり得る。それゆえ、コピーすることは学生が自分の考えを表現しようとする方法になるのである。スティーブン=ホロウィッツはワシントン D.C.にあるジョージタウン大学法科大学院の法律英語の教授だ。VOA ラーニング・イングリッシュへの電子メールの中で、彼は「自分たちが引用する多くの事柄は誰もが知っているものであり引用元を表示する必要性も期待もないため、出典を表示することを要求されないことが多い、と説明してきた中東文化圏出身の学生と話したことがあります」と述べていた。ホロウィッツはこう続けた、「時に一部の留学生は引用文を使うことを私は知っています…なぜなら彼（彼女）らの言葉では引用文における意味を正確に伝えられないと感じ、代わりの文章を提示するのは自分の立場ではないと思うからです」「引用文を使わない文章でも、留学生に出典表示の必要性を説明するのは難しいことが多いのです」と彼は付け加えた。

④ 学生にとって引用を容易にし、かつ剽窃を避けるための無料のツールがある。ゾテロは、学生が使用する可能性のあるすべての研究を構築するのに役立つ無料のオープンソースプログラムである。例えば、それは自動的に出典を作成し1つのリストにまとめることができる。パデュー大学・オンライン・ライティング研究、略してパデュー大学 OWL、は別の無料リソースだ。多くの大学にはまた、学生が引用のルールを学ぶことができるライティングセンターがある。そして学生がどのように剽窃を避けるべきか、に関して学ぶもう1つの方法は、発表された論文を読み、情報がどのように提示されているかに深く注意を払うことである。学生はいつ、どのように引用が使われているかを観察すべきだ。これは彼（彼女）らが引用のルールを学ぶのに役立つだろう。最後に、教育的あるいは学術的な文章を書く場合において、少なすぎるよりは多すぎるくらい引用した方が良い

ことを覚えておいてほしい。

解説

問1. 空欄Aの前の follow がヒントになる。follow は「～を追う」という意味の他に「(規則, 助言など)～に従う」という意味がある。また, 文脈から考えても空欄に入れて自然な流れになるものはウの rules「規則」である。ちなみに follow a rule という表現は頻出である。覚えておきたい。

問2. creation は創造物という意味がある。彼らの創造物 (their creations) とはオリジナルの作品を表す。よって, エが正解となる。

問3. 下線部(2)を含む文を見てみると, オリジナル作品を使うにはいくつか制約があると書いてある。下線部(2)の直後の文では「教育においては…」というように具体例が述べられているのでここに正解があると考えられる。「出典を表示すれば, 作品のごく一部を使用することができる」とあるのでエが正解。

問4. 選択肢になっている動詞は make と urge である。文脈から考えてこれらはいずれも使役の意味で使用されていることがわかる。make は「目的語+動詞の原形」が続く一方で, urge は「目的語+to do」が続く。空欄Bの後には to give … となっていることから urge を含む選択肢ウとエに絞られる。さらに, ここでは「大学側が学生に出典を記入するよう促している」という内容なのでエが正解になる。

問5. failure (of A) to do で「(A が)～しないこと」, A is considered (to be) … で「A は…だと考えられている」という意味。よって (A failure) to do so is considered plagiarizing という語順になる。2番目にくるものはイの do, 5番目にくるものはアの considered である。failure to do の意味を知らない受験生の多くが「そうしないことが」という日本語訳に惑わされた可能性がある。failure の意味がわかれば, 直後に to do so をもってきて「そうすることの失敗」→「そうしないこと」を導き出せるだろう。提示された日本語を直訳しようとせず, 同趣旨の文になるように組み立てることが大切である。

問6. 下線部を含む文は剽窃の罰則は様々であると述べている。ここから数ある罰則が列挙される流れになっている。第2段最後から2番目の文に they may fail the student in that class とあり, その授業で学生が落第す

る可能性を示唆しているので正解はウとなる。

問7. struggle (苦勞する) は頻出語。絶対に覚えておいてほしい。この意味に最も近いのはアの find it difficult 「難しいと感じる」である。find it ~ to do で「…することは～だと感じる, 思う」という表現で, 語句整序問題にもよく登場する。例: I find it interesting to learn English 「英語を勉強することは興味深いと感じる」

問8. このような下線部の具体的内容を選ぶ問題ではその後に答えがある場合が多い (英語は一般的に「抽象」から「具体」に進行していく言語である)。下線部直後で「一部の文化では…」とそれぞれの文化の違いを詳しく説明している。抽象 (cultural differences) から具体 (some cultures do …) への流れを掴もう。正解は第3段第5文 (In others, …) の内容をまとめたウになる。

問9. 空欄Cの直後の that に注目する。この that はその後に完全な文が続いていることから接続詞である。そこから a lot of things they quote are … の後には「so ~ that … 構文」が使用されていることがわかり, 選択肢ウとエに絞られる。そして「留学生は周知の事柄を述べる上で引用の必要性を見出せずにいる」という内容から, ウの「全ての人にとっても馴染みがある」が正解となる。

問10. 下線部を含む英文の意味は「時折, 引用された文章を使う留学生がいるが, それは彼らは自分の言葉では引用された文章の意味を正しく表現できないと感じ, 代わりの文章を提案するのは自分の立場ではないと感じるからだ」

引用元の内容を咀嚼した上で自分の言葉で表現しなおすことに困難を感じるので, 変更せずにそのまま引用を行ってしまう, という内容。よってアの「原文を自分のことばで言い換えること」が正しい。

問11. This は前の文章を指すのでそこに注目しよう。最終段第6・7文 (And another way … citations are used.) は, 発表されている論文を読み, その情報がどのように示されているかに注意を払うことが, 剽窃を防ぐために学ぶべき方法だと説いている。よって答えはウ。

問12. ア. 第1段第1文 (In the digital …) を参照。「違法コピーした著作物」とは書いていない。

イ. 保護期間についての言及はなされていない。

ウ. 第2段第11文 (Harvard even warns …) に「ハーバードでは、自己剽窃に関してさえも警告をしている」とある。よってウは合致しない。

エ. 最終段第3文 (For example, it …) に「ゾテロは自動的に出典を作成しリストにまとめることができる」とあるのでエは本文の内容に合致する。

オ. 最終段第4文に The Purdue Online Writing Lab, or Purdue OWL for short とある。or には「つまり」という同格を表す意味があり、for short は「略して」という意味。よってこの2つは同一のものを指している。したがって「異なるソフトウェア」と書いているオは合致しない。

3

解答

1—(エ) 2—(イ) 3—(イ) 4—(ア) 5—(イ)

解説

1. 「私は3つの単語で、人生について学んだ全てのことをまとめることができる、それ (= 人生) は続く、ということだ」

三人称単数の it が主語なので(エ) go → goes になる。

2. 「お金は第六感のようなもので、それがなければ他の5つの感覚を完全に使いこなすことはできない」

接続詞がない状態で2つの文 (Money is like … と you cannot make …) が並んでいることに注目しよう。2つの文をつなぐ役割をもった単語が必要である。ここでは(イ)の it の代わりに、前文の内容を先行詞にとる which を用いて without which とすると、正しい文になる。

3. 「私たちがトラブルに巻き込むのは、自分たちが知らないことではない。それは、本当はそうでないのに確実にわかっていると思ってしまうことだ」

what we don't know 「私たちが知らないこと」で文がすでに成り立つので(イ)の it は不要になる。ちなみにこの what は the thing which と同意の関係代名詞である、と考えるとわかりやすい。

4. 「自分の運命は自分で決めなさい、でないと他の誰かが決めることになる」

… , or S V という構文に気づくことが必要である。これは“…”の部分に命令文が入り、「…しなさい、そうしないとSはVする [である]」と

いう意味を持つ。よって、(ア)の Controlling を Control にすれば自然な文になる。ちなみに someone else will の後には control your destiny が省略されている。

5. 「人生は実際とても単純なものだが、我々はそれを複雑にしようと要求する」

insist という動詞は後ろに to *do* の形をとらない。insist on *doing* で「～するように強く求める。強く主張する」という意味になる。よって、(イ) to make を making にする。

4 解答 1ーク 2ーウ 3ーオ 4ーシ 5ーサ 6ーア
7ース 8ーキ

解説

1. 「将来留学できるように、私は毎日英語を勉強している」

so that S can V 「SがVできるようにするために」

2. 「どうして誰も会議のことを言ってくれなかったのですか？」

How come ~? で「どうして～ですか」という理由を尋ねる疑問文になる。how come の後ろは肯定文の語順になる。

3. 「ここは人々が集い、おしゃべりし、リラックスする場所である」

which は関係代名詞なので、後には不完全な文が続くのだが、ここでは people get together, chat and relax. という完全な文が来ている。先行詞は a place なので、後ろに完全な文をとる関係副詞 where と同じ意味を持つ in which とすることで正しい文になる。

4. 「私たちは来たい人は誰でも歓迎する」

文脈から anyone who … と同意の whoever を用いると自然な文になる。be willing to *do* 「～してもかまわない」という意味がある。

5. 「私たちはできるだけマスクを着用するように求められた」

whenever possible は whenever it is possible の省略形で、「できるだけ、可能なかぎりいつでも」という表現。同様なものに whenever necessary 「必要なときはいつでも」、whenever convenient 「都合が良いときはいつでも」などがある。

6. 「もしコロナウイルスの大流行がなかったら、彼女はオリンピックに出場していただろう」

had it not been for A 「もし A がなかったら」という仮定法過去完了の表現。if it had not been for の倒置形である。

7. 「それが彼女が國學院大學で学ぶと決心した理由だ」

the reason why ~ で「～の理由」という意味。ここでの why は関係副詞だが、先行詞は the reason であることがほとんどである。

8. 「その文書はあなたに送られました」

文末の to you がヒントになる。be sent to A 「A に送られる」の現在完了形 has been sent to you が用いられて「あなたに送られた」という意味になる。